

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100535		
法人名	社会福祉法人光志福祉会		
事業所名	ネムの木グループホーム円座		
所在地	香川県高松市円座町西村94番1		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町受理日	令和7年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物はCLT工法を採用したスギの木をふんだんに使用しており、木の温もりを感じられ心安らぐ空間を作っている。また、備え付けられたオープンキッチンで3食とも食事を手作りしている。調理を通じて五感をバランスよく刺激することをモットーにしている。ご利用者の方々と一緒にキッチンに立つことで、その方が生き生きと生活できるように心がけている。さらに、手作りのおやつ作りや季節の行事に合わせたイベント・外出など、楽しく生きがいのある毎日を提供している。また、手作りの品を利用者がコミュニティセンターに届ける等、地域の方々との交流を大切にして穏やかな生活ができる様に支援している。(感染症流行の発生状況を考慮した上で実施)共用型デイサービスを1ユニットで開設し受け入れを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所が所属する福祉法人は明確に統一された運営指針を持ち、実務の面で方針に沿った堅実な運営を手掛けられている。職員は運営指針書を手元に携え、日々の実践の参考としている。職員の自主性や意欲を盛んに発揮出来るのは、法人が職員をしっかりとバックアップして働きやすい職場環境作りをしていることに尽きる。利用者は3食ともユニットで手作りの食事を十分に食べ、メリハリの利いた生活リハビリにより健康を維持している。職員は利用者や家族の相談事に応じて、家族からの信頼も厚いようである。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和7年1月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和・『職員に大切にほしい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている	毎日の朝礼では法人全体で基準とする経営指針書を持ち、指定した個所を音読したり唱和して、職員の意識統一がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれたイベント開催を行うよう努めている。令和6年度は5年度に引き続き施設敷地内に置いてマルシェイベントを行った。また、地域のコミュニティが主催する防災訓練にはじめて参加した。ご利用者の外出は計画をもとに実行しており、円座小学校の文化祭への参加ができています	地域に開かれた事業所を目指し、事業所でマルシェイベントを行うなど、地域住民との交流の場づくりが継続実施されている。民生委員やコミュニティセンターの情報やアドバイスを活かして地域や学校のイベントにも参加されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議について、計画月に実行できている。マルシェイベント内では高齢者体験等の催しを行い、高齢者介護に触れる機会提供を行った		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画月に実行し、入居状況の報告をはじめ行事の実行状況の紹介を行い意見を頂いている	運営推進会議は定期的に開催され参加者の皆さんは熱心な方が多い。議事内容や意見交換からは意見が忌憚なく述べられていることが解る。事業所が地域住民の期待に応えられるよう取組まれている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、行政からの連絡事項等が伝えられている。事業所での介護についての事案は介護保険課に問い合わせるなど、日頃からの連携が取られている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている。当年において疑義はみられていない	身体拘束対策委員会を定期的に開催、年2回は研修会を行い知識を深め、拘束しない介護の実践が図られている。事業所が玄関からエレベーターか階段を上る2階にあり、施錠は安全確保のため施錠は行われているが、家族等にも説明、了解が得られている	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。当年において疑義は見られていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当年度での明確な進捗は見られないが、今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい。また、併設の居宅介護支援事業所からの情報提供を受けることや、外部研修(オンライン含め)への積極的参加も計画したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようにしている。頂いた意見、要望については、委員会や生産性向上委員会、定例会等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している	利用者との日々の会話や、家族等との面会や連絡時のコミュニケーションを大切に、信頼関係の構築に努められており、聞き取られてた意見や要望は、検討して改善が図られている。決定事項や議事録も職員間で共有され実行に繋がっている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している。運営に関する課題は毎月の定例会で議論し解決策を講じる	管理者は職員と毎月面談を実施して、事業所での意見や改善点を話し合うとともに情報の共有が図られている。運営についての意見も聞き取り、毎月の定例会にかけ協議解決に繋がっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、等級のランクアップができる様に計画されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている。系列のGH部門同士で定期的に連絡会を開催し、成功事例や課題の共有を行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、ご本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。職員間で情報共有を行い、全員がこ小野宮生活歴、週間などを知っておくようにしている。その場しのぎにせず申し送りを徹底し統一している		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居後はこまめに様子を電話等で伝達している。また、入居2週間後にプランを見直し、困りごとやサービス提供内容の改善を行っている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている。生活リハビリの観点から食事づくり等の家事動作に積極的に参加して頂いている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている（新型コロナウイルス感染防止のため、人数、時間制限の上で相談室にて面会対応を行っている）		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。感染対策を十分におこなった上で、病院受診に出かけた際には、自宅のある地域を回るなどの工夫を行っている。ご家族からの電話や来所時の面会等、機会確保をすすめている（接触機会の増加）	感染症対策のため外出が難しくなり外部との交流が途絶えがちとなっているが、外出の支援や接触の機会の増加にむけて、電話の取次ぎや手紙やはがきの投函、面会時等での会話にて関係者の協力が得られるよう努められている	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している。認知症や言語障害により他者との関りが困難な方は職員がこまめな声掛けを積極的に行い、また一対一で関わる事で信頼関係を構築し孤独感を感じさせないように努めて援助している		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を把握し、職員間で情報共有できるようにしている。本人の意向を大切にし、想いを汲み取る努力をしている	利用者と共に作業したり会話を重ねることによりその人の人となりを理解し、職員間で話し合い情報を共有されている。家族にも話を伺い利用者の思いや意向の把握に努められている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、現在までの生活や暮らし方、家族の中や職場での役割など、これまでに歩んできた人生を知るように努めている。また、ものの好みや嗜好を把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の現在の状態把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換しながら計画立案を行っている。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っていることに加え、担当者会議への参加をすすめている	モニタリングは担当職員が行い、ケアカンファレンスにて、意見交換しながら計画立案がなされている。介護支援専門員は本人や家族等と担当者会議を行い意向の確認や計画の承認がなされている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の研修参加により得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用を優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている	かかりつけ医は本人や家族の希望が優先されている。基本的に受診は家族の協力を得て行い、事業所は情報を共有している。協力医療機関の往診や歯科医の往診にも対応している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談を行い、適切な対応ができるように努めている。併設のデイサービス部署の看護師と連携を図っている。1名の看護師がデイサービス、グループホームを兼務しており、週1回勤務する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている。医師等の専門家の意見を伺い、自己判断のないよう努めている	入居時より重度化した場合の事業所の対応を説明している。重度化により多くの介護が必要になる場合は本人や家族の意向が尊重されている。施設変更も選択肢であり、看取りの対応はこれからの課題として検討がなされている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練に参加。令和6年度では地域のコミュニティ主催の防災訓練に職員が参加した	併設のデイサービスと共同で災害時の避難訓練が定期的に行われている。火災や水害に対する備えを予見し、整備に努められている。地域の災害訓練情報を取得して訓練に参加するなどの積極的な姿勢で取組まれている	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している。個浴での入浴や排泄の確認等は他のご利用者に聞こえないよう配慮している	職員は介護方法について年間を通じて研修を受けている。より良い技能の向上を目指し、一人ひとりの利用者に対する応じ方も話し合わせ、質の高い介護の実現に努められている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の自由にして頂いている。(化粧、アクセサリー等)入浴時には着替えの用意等、ご本人と一緒にやっている。好きな服を選んでもらっている。居室から出る際に手鏡とブラシを渡し、身だしなみを整えて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・盛り付け・後片づけを行っている。自力摂取が続けられるように食事形態の変更や、視野狭窄に対応するため器の配置に配慮を行っている	栄養士の献立により、食材を地元の業者に発注して、毎食事業所内で調理されている。調理のプロセスの中で利用者の五感を刺激し、食べることへの関心を持つことを大切に支援がなされている。その場で食事作りをすることで、食欲は増しており、よく食べられている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、別拠点の管理栄養士が管理、作成しているメニューを提供している。食事量・水分量は記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。提携する訪問歯科と連携を図り、年に一度の無料健診を受けている。必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを受けられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている	紙おむつの使用者はいない。個々の身体状況や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援が行われている。本人の出来ることを活かし、声掛けや誘導、介助方法の検討がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日にちは変更している。フロの日(26日)イベントで入浴剤入りのお風呂の日を設けている。湯の温度や時間など、個人の希望に応じている	その日の気分に合わせて柔軟に対応するなど工夫しながら、ひとり週3回の入浴が実施されている。入浴を勧めていく方法として、お風呂の日を設定して、温泉などの入浴剤を使用するなど楽しみの演出されている。個人の好みに応じた見守り支援など、配慮もなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・起床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはいないようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している	外出は、年間計画に従い立案、予定を組んで実施されている。日常的にも、天気の良い日などは、職員付添いで近所や庭園の散歩などされている。本人が行きたい場所や会いたい人については家族と相談して本人の希望に沿うよう努められている	コロナ禍の影響で、外出が制限され減少していましたが、利用者の行きたい場所、やりたいことの実現やストレス解消、気分転換となる外出機会が徐々に増えていくことに期待します

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。「買い物に出かけ、自分で支払いをしたりお釣りの管理をすること」をプランに盛り込み、計画的に実施した事例等		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時に連絡を取ることを制限していない。そうでない方も、希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るよう、支援している。ご本人の申し出時に事務所で電話して頂いている。馴染みのご友人からの手紙や連絡も続いており、順次取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。室内には、天窗から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている	ユニットごとにテラスがあり、テーブルや椅子が配置されている。足元にはプランター栽培で季節の花が育てられている。キッチンを中心に食堂があり、職員の動きも利用者の様子も一望できる。職員は利用者と共に会話を重ね、利用者と一緒に歌い、和やかな団らんがみられる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒等の介護事故の発生状況により配席指定を行う場合がある。場面に合わせて机の配置も変えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている	個室入口には氏名や作品が貼られて、目印代わりとなっている。内部は木目や木目調の壁で落ち着いた色調である。ベッドや半間の物入が備えられており、私物が入れられる。タンスや収納ケースを配置してもゆとりとした空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和と『職員に大切にしたい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれたイベント開催を行うよう努めている。令和6年度は5年度に引き続き施設敷地内に置いてマルシェイベントを行った。また、地域のコミュニティが主催する防災訓練にはじめて参加した。ご利用者の外出は計画をもとに実行している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議について、計画月に実行できている。マルシェイベント内では高齢者体験等の催しを行い、高齢者介護に触れる機会提供を行った
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画月に実行し、入居状況の報告をはじめ行事の実行状況の紹介を行い意見を頂いている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている。Ipadを用いてご利用者の取り組みの様子を撮影し、定期的に地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を訪問の上で内容紹介している
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当年度での明確な進捗は見られないが、今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい。また、併設の居宅介護支援事業所からの情報提供を受けることや、外部研修(オンライン含め)への積極的参加も計画したい
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようにしている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、等級のランクアップができる様に計画されている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている。系列のGH部門同士で定期的に連絡会を開催し、成功事例や課題の共有を行っている

自己 外部	項目	自己評価
		実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている。認知症状の影響でうまく思いが伝えられない方についてはご家族に情報提供の協力を頂き、日々の中でアプローチできるよう取り組んでいる
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている。入居以降も定期的に電話等で状況報告を行い、ご家族が安心できるよう努めている。状況報告の頻度は入居前にご家族に確認している
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への毎月の便りに添えて、ご利用者の日常の様子のお写真をお送りしている。面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。認知症カフェにご利用者の友人が来られた時には、おしゃべりできる機会を提供している。携帯電話を所持されているご利用者もあり、ご友人やご家族との会話を行って気分転換につながっている例が見られている
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を大切にし、想いを汲み取る努力をしている。日々の暮らしの中での会話や行動から職員が思いを汲み取るよう努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、背景や生活歴だけでなく、好みや嗜好を把握するように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の状態把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換している。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している。問題が生じた場合、都度で現場で話し合っている。また、朝の申し送り時にはミニカンファレンスを行っている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、職員の研修に「介護保険」に関する内容を取り入れ、基本的な事だけでなく、新しい情報を得ることができる様にしている。得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用をを優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談を行い、適切な対応ができるように努めている。併設のデイサービス部署の看護師と連携を図っている。1名の看護師がデイサービス、グループホームを兼務しており、週1回勤務する
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている。医師等の専門家の意見を伺い、自己判断のないよう務めている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練に参加。令和6年度では地域のコミュニティ主催の防災訓練に職員が参加した

自己 外部		項 目	自己評価
			実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している。個浴での入浴や排泄の確認等は他のご利用者に聞こえないよう配慮している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。入浴後の着替えを選んでもらう時もある。また、ご利用者を担当する職員が温かいおしぼりや化粧水、ブラシ、鑑を用意して一日の始まりを気持ちよく過ごして頂けるよう支援をしており、ご利用者から好評を頂いている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・後片づけを行っている。定期的に提供希望する食事のアンケートをとり、ご利用者各自の誕生日等で提供している。また、希望するお店に外出する取り組みも行った
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて、ご家族からの差し入れや栄養ドリンク等の提供も行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している。歯科往診を1～2回/月、外部の訪問歯科診療所に依頼している(希望者)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している。排便の状況を見ながら、内服の調整を行い排便のリズムを整えるようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日にちは変更している。体調管理に努め、血圧や熱発の変動に注意し、安心、安全な入浴に努めている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはないようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している

自己	外部	項 目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。散歩のついでに自販機で飲み物を買うこともある。個人の希望に合わせ、スーパーに買い物に出かけ、支払い・お釣りの管理を行うこともある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るように、支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せずに、好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している